

最新版 : <http://www.kojima-core.co.jp/report.html>
 バックナンバー : <http://www.kojima-core.co.jp/backnumber.html>
 e-mail : kojima@kojima-core.co.jp

共用部排水立て管の更新

CR継手を用いたKJ・US工法

共用部の金属製排水立て管(ストレート排水用铸铁管、DVLP)の更新には、現場で切断作業を必要としない、新築時からの1本管工法が可能です。

今回は、共用部PSを試験室に仮設し、新築時の立て管施工手順と更新時の立て管更新手順を報告します。

●新築時・更新時の施工手順



写真1

新築時のUS継手付立て管を把持具(はじぐ)を用いて施工



写真2

規制治具をはずさず

新築時の手順を動画でご覧になれます。

プロドバンド (2.6MB)

更新時の手順を動画でご覧になれます。

プロドバンド (4MB)

動画をご覧になる際、データのダウンロードが完全でないと、止まって見ることがありますので、ダウンロードが完了するまでお待ち下さい。



【規制治具KJ施工上のお願ひ】

KJ・US工法には、必ず本規制治具KJをご使用の上、支持具の各ベース底面がスラブ上面にしっかりと密着していることをご確認の上、取り外して下さい。

上階のCR継手を下階のUS継手に差すと同時に支持具の施工を完了させた上、規制治具KJを取り外し他の施工箇所に繰返しご利用下さい。



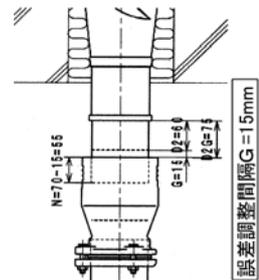
やり取り代D2: US継手の上端面とCR継手差し口の規制リブ下端面との距離

なお、 $75\text{mm} > D2 \geq 60\text{mm}$ に施工して下さい。

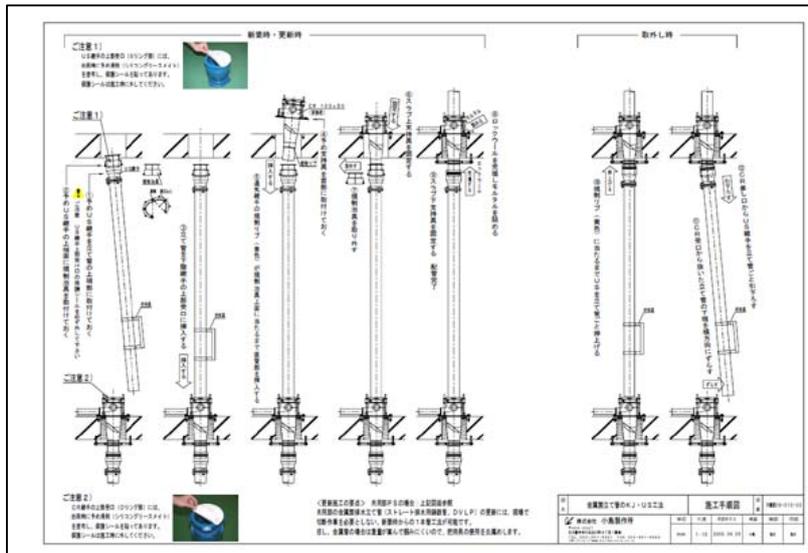
誤差調整間隔G=15mm

【現場応用】

D2=60mm+10mm用として利用する場合には、規制治具KJの調節用蝶ボルトの位置で高さを決めます。この場合には、1本立て管の管長Tを-10mmに裁断します。(2009.2.28号2/2 ■立て管長計算図①参照)



●施工手順図



ご注意1)



写真3

US継手の上部受口(リング部)には、出荷時に予め滑剤(シリコングリースメイト)を塗布し、保護シールを貼ってあります。保護シールは施工時に外して下さい。

ご注意2)



写真4

CR継手の上部受口(リング部)には、出荷時に予め滑剤(シリコングリースメイト)を塗布し、保護シールを貼ってあります。保護シールは施工時に外して下さい。

関連リンク



2009.2.28 CR継手(更新君)の 立て管更新の作業性 「KJ・US 工法」、「US・両受けユニット工法」



2009.2.15 KJ・US 工法の新製品 CR 継手/愛称:更新君 専有部台所流し系統の立て管更新に